＜先週の説教から＞

『ルカ86 ― 決意を固められたイエス様』

武田 真治　牧 師

エゼキエル書　6：1～10　ルカ福音書　9：51～58

今日の箇所は「イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。」という言葉から始まっています。この時、イエス様はまだガリラヤ地方を伝道しておられました。ガリラヤは、お育ちになったナザレの村がある地域で、イエス様にとっては地元と言ってもよい場所でした。伝道を開始された際に、まず身近な場所からと思われたのは自然な流れでした。しかし、今やユダヤ地域にあるエルサレムの都へと向かう“旅立ち”を決意されたのでした。そして、ガリラヤの下に位置する“サマリア”地域へ向かおうとされたのでした。その為に「先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。」のでした。ところがサマリアの「村人はイエスを歓迎しなかった。」のでした。その理由として「イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。」とあります。どうして、それだとダメなのでしょうか？

サマリアは、もともと北イスラエル王国でしたが、アッシリアという外国によって攻められ、支配下に置かれてしまった時に、アッシリアの政策として民族の混血を図られたのでした。外国の他民族が連れてこられて、半ば強制的に混血が行われ、そのことで同じ民族による謀反や独立戦争を起こさせないようにされたのでした。その結果、できあがった民族がサマリア人でした。彼らは、古くイスラエルのユダ族という単一民族性を保ってきたユダヤ人たちにとっては唾棄するような存在と見なされてきました。それに対し、サマリヤ人たちも、本来のイスラエルの聖地は自分たちの中にある“ゲリジム山(＝約束の地に入った時に最初に主を礼拝した場所)”であり、エルサレムではないと主張して対抗していました。故に、ゲリジム山の聖所ではなくエルサレムに向かわれるのに宿を貸したり、話を聞いたりすることはあり得ないとイエス様たちを門前払いにしたのでした。

このことで、しかしサマリア人たちはイエス様からの救いの恵みや奇跡、病の癒しを受けられないことになりました。この後、イエス様は『狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子（＝イエス様ご自身）には枕する所もない』という言葉を語られたのも、このサマリア人の仕打ちを受けられたからとも言い得ます。では、向かおうとされているエルサレムには「枕する所」があったのでしょうか？実は、全く逆で、エルサレムこそ裏切りと裁判と十字架の死が待っている場所であり、むしろその旅は“死出の旅”と言い得たのです。ただ、今日の箇所の最初に「イエスは、天に上げられる時期が近づくと」とありました。エルサレムに向かわれるのは《天に上げられる＝昇天》の場所だからなのです！イエス様の“人生の旅”の目的は《天へと向かわれる》ことであったと。ヨハネ福音書14章に記されているように、イエス様は、その天に「あなたがたのために場所を用意しに」行かれるのです。そしてそこに「あなたがたを迎える」と！そしてイエス様と共にいるようになれる場所が“天のみ国”です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．9月23日(水) 20：00
　　Ⅱ．9月24日(木) 10：30

聖書研究：　ヨブ記
祈祷主題：　日曜学校を覚えて
担 当 者：　(水) OY　(木) MH
祈りに覚える人：NEさん　NYさん

【教勢報告】

主日礼拝　　男19　女44　計63
祈祷会 Ⅰ．男2 女2 計4　Ⅱ．男1 女4 計5
日曜学校　幼稚科5　小中科8　計13
ハンナの会・9月15日(火)　男1 女4 計 5

【次週主日礼拝】　9月　２７日（日）

聖　書：　詩 編 ６４編　１～１１節
　　ヤコブの手紙　３章　５～１２節
説　教：　「詩編64 ― 彼らは舌を鋭い剣とする」
　　武田 真治 牧 師
讃美歌：２１１(1)、３２、３７、４６２、５６１、
　　４２－１(1)

【次週当番表】

司式:SM長老 奏楽:HN長老 礼拝:KY長老
献金：NY　NY　受付：KH　SY
会堂準備：OK　KH　KA　TN
　　NE
看板：NY　週報：IT　お花：IY

【次週集会予定】

礼拝前：・日曜学校　・聖書輪読会　・はこぶねルーム
礼拝後：・お茶の会　・牧師と語る会　・聖歌隊練習
　　・礼拝/牧会/伝道/社会教育 各委員会

６７－３８

週　報

2026年度　教会標語

「神様に“望み”を持って、生きる！」

２０２６年　９月　２０日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549